

新入職員へのメッセージ

昭和医科大学病院 病院長 さがら ひろのり 相良 博典



新入職員の皆さま、入職おめでとうございます。医療人としての仲間入りをし、これから新生昭和医科大学病院の更なる活性化に未来志向の考え方、またそこに繋がる新たな気づきを与えてくれることを期待しています。

昨年4月から「医師の働き方改革」が始まりました。その中においても、大学病院は、高度医療人材養成と医学系研究の充実が求められています。中長期的かつマクロに見ると、医師需要は減少局面に入ることが見込まれています。医師の地域間・診療科間等の偏在問題は依然解消に至っておらず社会ニーズに対応した医療人材を養成するための教育プログラムの充実が必要です。

また、医療の高度化を実現する最先端の医療設備の活用能力を含め、医療人材が習得すべき知識・技能は益々増加していることなど、医療現場である大学病院におけるより実践的な医療人材養成の推進が必要です。このように、大学病院における教育・研究機能の一層の充実・強化が求められている中で、大学の実情に應じ、我が国の「未来の医療」を担う医療人材の養成環境を整備し大学病院の機能強化を図ることは喫緊の課題です。人間と自然は不可分です。科学元素の混合物に見える空気も、生命体によって生み出されたもので、いわば毛髪のようなものと言えるでしょうか。何百万年かけて生命体が大気を作り出してきました。何がバランスさせているのかはわかりません。ただ、私も、あなたも、誰も彼もが、地球の構成物で、バランスの中に生きていて、昨今の気候変動も然りこの調和が崩れ始めていて、私たちは行動する必要があるであろうということでしょう。一人の存在はあまりに小さく感じます。が、一人の行動では何も変わらないのでしょうか。

コロナはよい教訓です。一人の行動で結果は大いに変わるので。パンデミックで学んだことは、一人がどれだけ多くを感染させるか、でありマスクをつけるかつかないかで状況は大きく変わるということでもありました。あの時、私たちは素早く学習し、素早く行動した極めて異例なことだと思います。大きなものと小さなもの、個人的なものとグローバルなもの、それらの結びつきが明らかになりました。

まだまだ明確な答えは出ていません。バランスを崩した社会に必要なとされることはやはり治療でしょう。そしてどんな治療も良く診る事からはじまります。一人の力は大きいものです。そして個々が連携してプラスの連鎖を起せば、複雑な世界は一変します。経験値の少ないものに対して、既定路線の独りよがりの治療は反対の治療になることにもなりかねません。決して、そのようなことにならないためにも、地域のよりよい医療を志す先生方と、そのような繋がりを今日の日に改めて深めてまいりたいと思います。我々は、ガイドラインに基づいた治療だけをやるのではなく、色々と斬新的な、或いは革命的な治療を創出していく立場にあるのです。ガイドラインではこうなっているから・・・ではなく、患者さんが求めているのはそれ以上のことを期待しているということを念頭に置いて、常に for the patients を胸に邁進していくべきだと思います。

幕末の儒学者佐藤一斎は「生涯学習の意義」を言志四録の一説に「三学戒」で述べていることは有名であります。◆少にして学べば、すなわち壮にして為すことあり（若くして学べば、大人になって世のため、人のために役立つ人間になる◆壮にして学べば老いて衰えず（壮年になって学べば、年をとっても衰えない。いつまでも生きいきとしていられる）◆老いて学べば死して朽ちず（年をとって学べば、死んでもくさらない。その精神は永遠に残る）

人生、常に様々な出来事が次から次へと起こってきます。しかし、その様なことに惑わされずに、新たな知識、経験値を上げていくためには日々の努力が大切ではないでしょうか。一人ではない、チーム力ではどこの病院にも負けない強みが我々昭和医科大学病院の強みです。我々のところに受診される全ての患者さんを助けるために、これからも、ともに頑張っていきましょう。

新年度のご挨拶

昭和医科大学病院附属東病院 病院長 ^{むらかみ ひでとも} 村上 秀友

皆様、こんにちは。どのような春をお迎えになっているでしょうか。この原稿の執筆の依頼があったのは列島に寒波が長く居座り、降雪にこそ見舞われてはいませんが東京地方に北風が吹いている2月中旬です。そのような寒中ではありますが、昭和大学病院前の立会川の並木では桜のつぼみが膨らみはじめており、春がもうすぐであることを感じて筆を執っています。



この春は私どもにとっては校名を昭和医科大学に変更する節目であります。これを機に本学教職員は本学の建学の精神「至誠一貫」(常に相手の立場にたって、まごころを尽くす)に立ち返り、一層精進を重ねてまいりたいと思います。

国内の人口減少や少子高齢化、一方でグローバル化や経済状況の変化など医療や教育を取り巻く状況は毎年のように大きく変わりつつづけております。近年にはそれらに対応すべく様々な取り組みが行われました。たとえば、法に担保された医学生の診療参加型実習(clinical clerkship trainee)の開始、医師の働き方改革と職種間のタスクシェア、臨床研修医や専攻医の研修制度の改革、医療安全や感染対策の強化など枚挙に遑がありません。また、医療の提供体制については地域偏在の解消の他にも医療機関間の連携の一層の強化も求められています。このような中で大学病院は教育や研究の役割も果たしながら、良質で最先端の医療を提供していかなければなりません。校名変更を機にこれまで以上に多くの方々に信頼していただくとともに新しい時代を見据えてより医療を提供して参る所存です。この春、新たなスタートを切る昭和医科大学病院および昭和医科大学病院附属東病院を何卒よろしくお願い申し上げます。



お知らせ

エマルゴコース研修を開催しました

3月15日（土）昭和医科大学病院・附属東病院にて、「エマルゴコース研修」を開催いたしました。エマルゴコース研修とは、人形や医療材料を模したグッズを用いた机上災害訓練で、当院での開催は6回目となります。今回は、院内の教育職員32名と、全国から集まっていたいただいたインストラクターの方々とともに行なわれました。

今回の訓練では、震度6の地震が発生し、その影響により、大井町駅付近で京浜東北線の脱線事故が起こるという想定で行われました。

本研修は、自分の所属部門以外の部署の動きを経験することができます。参加者の事後アンケートでは、「自部署に注目しがちだったが院内の動きがわかり学びになった。」「それぞれの部署を経験することで災害時の対応のイメージができた。」などの感想が多くあがりました。

地域の災害拠点病院として、災害発生時には的確かつ迅速な対応が求められるため、今後もこのような災害訓練を行ない、災害対策の意識を高めてまいります。



お知らせ

ゴールデンウィークの診療体制について

ゴールデンウィーク期間の外来診療は以下の通りとさせていただきます。

| 対象日 | 診療体制 | |
|--|------------------------------------|------|
| | 外来診療 | 救急診療 |
| 令和7年5月3日（土） 5月4日（日） 5月5日（月） 5月6日（火） | 【内科系】【小児科】 臨時診療体制 8:30~17:00 | 通常通り |

- ・臨時診療のため、専門医による診療を提供できない可能性があることを予めご了承ください。
- ・診療費として、休日加算または時間外選定療養費（※注）（8,800円）の徴収がございます。

（※注）紹介状をお持ちの場合、または当院かかりつけで担当医より予め来院を指示されている場合は、時間外選定療養費の徴収はございません。

お知らせ

医師の配属・異動・退職について

新規配属

【新規採用】令和7年4月1日付

- 眼科 杉浦 里花、藤枝 虹介、川村 淳紀、島田 優、福岡 聖也 ●感染症内科 尾田 正仁 ●救命救急科 佐久間 佑希、高野 彩音、菊地 一樹 ●形成外科 大澤 亮晨 ●血液内科 梅本 真美、白井 綾乃 ●呼吸器・アレルギー内科 林 亜希子、蓼田 遥、池田 均
- 呼吸器外科 上田 康平 ●産婦人科 竹中 慎、岡本 ひなの、加藤 有紀子、齋藤 香奈子、相馬 芽唯、田村 梨々花、長尾 茉依、松本 理穂、守屋 水智、矢野 智子、山野邊 雛子 ●耳鼻咽喉科 濱田 幹太、旭 宣明 ●集中治療科 入山 大希
- 循環器内科 大島 研、國本 恵理奈、相山 由実、三木 莞爾 ●消化器・一般外科 井上 嵩章、田口 祐貴、齋藤 晟大、関口 航也、田中 美花、出口 一紀 ●消化器内科 石井 有莉寿、中村 絢心、山崎 裕太、西川 晃一 ●小児科 井出 夏都、田尻 紗和子、中嶋 景、中原 友季 ●小児循環器内科 川村 悠太、菊地 夏望 ●腎臓内科 折笠 真由子、生駒 直大、片岡 知佳、佐藤 彰規
- 整形外科 樋口 郁美、池上 さゆり、千歳 修司、土田 平蔵、中西 俊介、野田 麻優子、眞許 一樹、豊田 仁志、山本 雄介、高木 涼平、宮永 悠聖、財津 弘毅 ●糖尿病・代謝・内分泌内科 荻野 まどか、丹野 大輝、安藤 友宏、大野 晃平、中井 隆裕、平田 淳
- 乳腺外科 岩本 綾乃、飯田 夏波、内田 佳菜子、楠元 詩織、佐久間 結菜 ●脳神経外科 諸藤 陽一 ●脳神経内科 戸門 真穂
- 泌尿器科 弘田 寛治 ●皮膚科 鹿島 慶子、小林 愛果、古谷 祐介、奥山 奈津子、山田 隆太郎 ●放射線治療科 嶋崎 健一郎、大崎 駿、橋爪 崇、楠原 英生 ●麻酔科 日吉 頼子、藤川 千紘、竹島 光貴、福澤 光歩、飯島 香子、細川 麻衣子、八井田 寛、竹内 舞、北村 莉恵、泰地 沙季、落合 弦 ●リウマチ・膠原病内科 齊藤 拓哉、新田 雅斗、吉玉 優美、杉本 菜々、寺前 友樹、桐花 玲奈 ●リハビリテーション科 野村 花江 ●臨床病理診断科 三由 尚知

異動

【附属施設へ】(令和7年4月1日付)

- 眼科 遠藤 貴美 ●救命救急科 森 ちひろ、榊原 真子、内田 泰誠、紀伊 健太郎 ●形成外科 堀ノ内 魁 ●産婦人科 廣瀬 佑輔、安井 理
- 耳鼻咽喉科 手口 裕奈、鄭 裕華 ●循環器内科 豊崎 瑛士、大西 克実、福岡 裕人、落合 雅也 ●小児科 柿 佑樹、野口 悠太郎、山下 真知、中島 論子、春山 和奈、及川 光輔 ●整形外科 早川 周良、永坂 玲央、中田 駿作 ●糖尿病・代謝・内分泌内科 藤川 大輝
- 脳神経外科 廣瀬 瑛介 ●脳神経内科 久保田 怜美、小澤 準之輔、三木 綾子 ●皮膚科 青木 道 ●放射線科 橋詰 典弘、加藤 和恵、松田 光司、山本 高史 ●麻酔科 植野 太佳裕 ●リウマチ・膠原病内科 舘田 淳平、清水 国香 ●リハビリテーション科 小島 大和、西田 悠
- 臨床病理診断科 中山 真悟

【学外施設へ】(令和7年4月1日付)

- 眼科 嵩崎 創平 ●救命救急科 山浦 真衣子、伊藤 圭太、野崎 季一郎、藤田 幸太郎、飯島 章子、武井 稔弥、長谷川 碩
- 形成外科 木原 将隆、江崎 聖美 ●血液内科 林 秀憲、黒岩 魁 ●呼吸器・アレルギー内科 川船 早絵、増田 玲良 ●産婦人科 須貝 純、南洲 杜萌、菅谷 聡美、松田 泰介、三田 真理子、宮田 康一、犬塚 早紀、諸見川 愛華 ●耳鼻咽喉科 榎本 達仁 ●集中治療科 関谷 健、落合 雅也 ●腫瘍内科 村 英美子 ●循環器内科 黒部 紗英子、酒井 陸郎、齋藤 純、半田 直、増永 裕輔、山田 真美子、織田 彩花、甲斐 陽介、鈴木 芳和、横川 大介 ●消化器・一般外科 吉田 亮生、風間 慎太郎、渡辺 誠、幕内 陽亮 ●消化器内科 九里 光政、高橋 傑、大西 良尚 ●小児科 天野 貴也、吉田 華菜、日隈 のどか ●小児外科 山下 愛理、安達 聖 ●小児循環器内科 長岡 孝太
- 腎臓内科 塩見 充加、下村 知輝、鈴木 智恵香、西村 太一、飯田 菜央 ●整形外科 正田 遥香、田口 顕太郎、吉山 慧、久保 祐太郎、ウエストファル 結衣、古閑 恒輝、櫻井 佑斗、西田 甫、田代 皓一郎、小糸 晃皓、妹尾 尚弥、岡崎 裕一郎、小川 稜示、西方 一将、山本 翔太、軍司 秀一、佐藤 杜英、荒木 湊、平野 貴大 ●糖尿病・代謝・内分泌内科 袴田 悠暉 ●脳神経内科 川窪 紗生、小塩 媛子、種子田 倫子、成田 遼、宮崎 悠嵩、邊見 光、平戸 麻里奈、石田 敦士 ●泌尿器科 朝倉 聡、關 陽子、宮間 敦士、玉岡 容、道口 彩菜
- 麻酔科 高岡 春花 ●リウマチ・膠原病内科 杉山 正弥、平 菜月 ●皮膚科 宋 基旦、長谷川 絢哉、畑 貴之、横山 祥子
- 臨床病理診断科 小原 淳、笹本 優

異 動

【附属施設から】(令和7年4月1日付)

- 眼科 北村 昂司 ●救命救急科 永樂 学、柳澤 薫 ●形成外科 小笹 俊彦、濱田 翔吾 ●産婦人科 小泉 貴子、小崎 大介、滝沢 真由、波多江 健五 ●歯科麻酔科 西村 晶子 ●耳鼻咽喉科 手口 翔太 ●循環器内科 望月 泰秀、小柳 唯、鈴木 芳和
- 消化器・一般外科 ヤクブ アブドゥルシディ ●小児科 岡田 祐樹、唐渡 諒、白井 まどか、氏家 岳斗、東園 綾香、楠原 史章
- 小児外科 上妻 大聖 ●小児循環器内科 大木 真穂、伊藤 愛 ●心臓血管外科 山口 裕己、山崎 裕起 ●腎臓内科 寺戸 成美
- 整形外科 瀧澤 美紗子、安部 崇子 ●糖尿病・代謝・内分泌内科 竹鼻 伸晃 ●脳神経内科 水間 啓太、慶長 雅人、渡辺 拓哉
- 泌尿器科 八島 卓也、澁谷 直人、中村 紗緒里、菊名 航太 ●放射線科 牧田 真弥、大石 万里、北川 嵩之、森井 翔太
- 麻酔科 今村 早希、山崎 紗也香、杉山 晴香 ●リウマチ・膠原病内科 道津 侑大 ●リハビリテーション科 吉田 百合香、小林 崇久 ●臨床病理診療科 井上 笙 ●精神神経科 岡井 文

(令和7年4月14日付)

- 整形外科 佐野 菜

(令和7年4月26日付)

- 糖尿病・代謝・内分泌内科 杉田 弘江

【学外施設から】(令和7年4月1日付)

- 眼科 藤森 琢磨 ●救命救急科 小澤 朋弘、富田 佳賢、服部 奈津子、河守 咲季 ●産婦人科 柚木崎 明彦
- 耳鼻咽喉科 川崎 正義 ●循環器内科 千野 沙織 ●消化器・一般外科 野垣 航二、藤森 聡、篠原 由加里、内田 泰誠
- 消化器内科 樋口 健佑、中谷 真也、上原 孝太、藤原 敬久 ●小児科 佐久間 マリア ●小児外科 木村 翔大、宮坂 俊
- 小児循環器内科 伊従 朱音、立石 彩 ●腎臓内科 河西 美絃、杉山 定、津端 智 ●整形外科 齋藤 創造、中村 彰太、櫻井 裕、志賀 研人 ●脳神経内科 正路 大樹、橋口 幸宜、工藤 万由 ●泌尿器科 角川 義樹、山岸 元基 ●皮膚科 村山 友理
- リウマチ・膠原病内科 小黒 奈緒

退 職

(令和7年3月31日付)

- 血液内科 藤原 有紀子 ●感染症内科 温 麟太郎 ●眼科 友寄 友美、友寄 英士、木崎 順一郎、石川 美穂
- 形成外科 頌彦 尚 ●呼吸器・アレルギー内科 佐藤 裕基、伊田 瞳、賀嶋 絢佳、伊藤 友紀、菅沼 宏充 ●小児科 三川 武志
- 歯科麻酔科 幸塚 裕也 ●腫瘍内科 角田 卓也、中安 薫、入口 菜々 ●消化器内科 宇佐美 智乃、三井 佑太
- 集中治療科 小谷 透 ●心臓血管外科 青木 淳、尾本 正、益田 智章 ●乳腺外科 城下 亜里沙 ●腎臓内科 森川 友喜、林 純一 ●泌尿器科 谷藤 暁 ●整形外科 岡田 智彰、臼井 亮二 ●精神神経科 城井 正彦 ●脳神経外科 水谷 徹、松本 浩明、山口 巖史 ●脳神経内科 金城 奈都子 ●皮膚科 岩橋 ゆりこ ●麻酔科 凌 将登、佐川 智紀
- 内視鏡センター 山村 冬彦

当取り組みは、昭和医科大学病院・附属東病院において関係職種間での行動（臨床に関する事項）を相互にプラス評価することにより、関係部署との連携を良好にし、**チーム力を高めること**で患者さんにより良い医療を提供することを目的としております。

薬剤部から放射線技術部へのありがとう！



放射線技術部のみなさん

放射線技術部のみなさんへ

造影剤の副作用報告を定期的に提出していただいています。

【患者さんに与えた良い影響】

造影剤の有害事象に適切に対応していただいているとともに、副作用報告によって患者さんが安全に医療を受けられるよう、貢献されていると思います。

看護部からリハビリテーション室へのありがとう！

言語聴覚士 星野さんへ

嚥下評価を行い、専門的な判断と医師・看護師に共有したり、食事形態変更についても提案してくれました。

【患者さんに与えた良い影響】

医師・看護師と積極的にコミュニケーションをとり、良好な連携が図られることで、患者さんにとっても安全で安心できる医療の提供につながっていると思います。



言語聴覚士 星野さん



作業療法士 佐々木さん

理学療法士 熊谷さん

言語聴覚士 中原さん

作業療法士 佐々木さん

理学療法士 熊谷さん

言語聴覚士 中原さんへ

患者さんの状態に合わせたリハビリを行うとともに、リハビリの状況を多職種間で情報共有してくれました。

【患者さんに与えた良い影響】

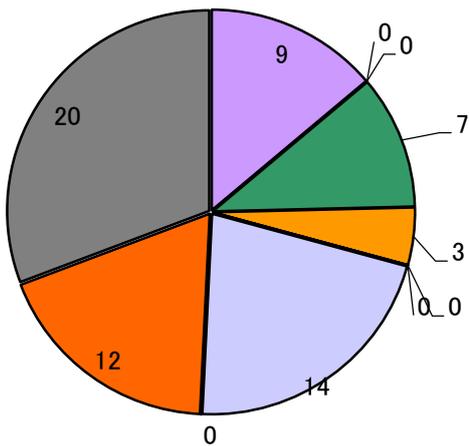
患者さんが食事を口から食べ、歩行できるまで回復し、目標を持ってリハビリ転院することができました。看護師もリハビリテーションのパワーに感動しました。

日頃よりチーム医療にご協力いただきありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

患者さんのご意見・ご要望

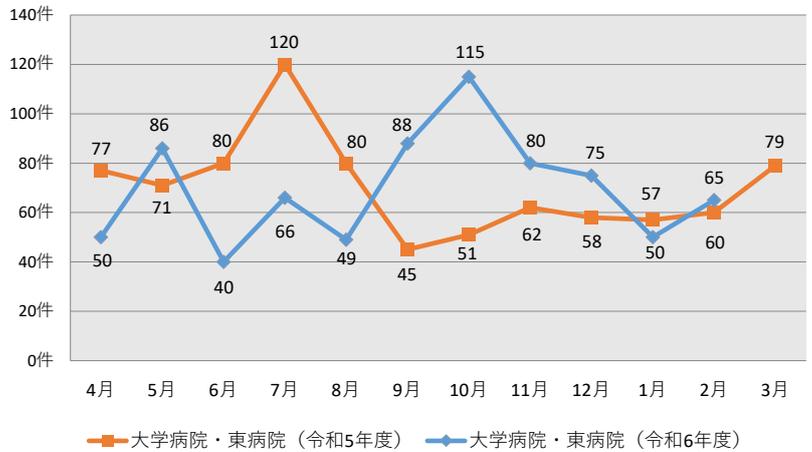
| ご意見・ご要望 | 回答 | 回答部署 |
|-------------------------------|--|-------|
| 初診受付の対応に感動いたしました。今後も頑張ってください。 | 日々、初診受付には不安や緊張を抱えてお越しになる方が多いと考えております。お褒めの言葉を励みに、少しでもお気持ちを軽くできるような対応をこれからも心掛けていきたいと思っております。 | 医事外来課 |
| 車イス用のトイレに荷物を置ける棚の設置をして欲しい。 | ご意見をいただきありがとうございます。物置台につきましては感染管理等の観点から設置しておりません。荷物等はフックをご利用いただけますと幸いです。 | 施設課 |

令和7年4月号掲載分
ご意見・ご要望の内訳
昭和医科大学病院・東病院総件数
65件



- 態度・接遇
- 診療内容
- 予約
- 待ち時間
- 食事
- 会計システム
- 売店
- 環境(清掃・設備備品・エレベーター)
- 環境(駐車場)
- 感謝
- その他

令和5年度・令和6年度ご意見・ご要望の推移





当院での食事は、医師の指示により病状にあった献立とし、行事食を取り入れた温かい食事を提供しております。今月は「お誕生日お祝い膳」をご紹介いたします。今後も季節や行事に合わせた食事をご提供してまいります。

※写真は昨年のものです。

メニュー

お赤飯、天ぷら、ブロッコリーのおかか和え、清汁、ケーキ

今年度より、昭和大学は「昭和医科大学」へと校名を変更いたしました。これに伴い、昭和大学病院も「昭和医科大学病院」と名称を改めております。本学が医系総合大学であることをより広く認知していただくための改称です。17階建ての入院棟に掲げられた病院名も一新されました。職員一同、決意を新たに、これからも質の高い医療の提供に努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

昭和医科大学病院・附属東病院の理念

- 患者本位の医療
- 高度医療の推進
- 医療人の育成

昭和医科大学病院・附属東病院の基本方針

- 患者さんと共にチーム医療を実践する。
- 特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- 教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- 人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

※記事見出しの色分けについて

病院だよりでは、見出しに色分けをすることで読者の皆さまが読みやすいよう工夫をしております。

黄色見出し：患者さん、患者さんのご家族向け

青色見出し：医療関係者向け

緑色見出し：医師の配属・異動・退職について



昭和医科大学病院

検索



昭和医科大学病院附属東病院

検索

発行 昭和医科大学病院、昭和医科大学病院附属東病院

発行責任者 昭和医科大学病院長 相良 博典

編集責任者 広報委員長 山岸 昌一

〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8

TEL：03-3784-8000（代表）